

山の校舎で過ごした日々



たくさんの思い出をくれた校舎です



四月から、太平小学校と統合されることになった木曾石分校。

山あいの小さな分校でしたが、そこで育まれた愛情の絆は、強く、そして、あたたかいものでした。

山と川に囲まれて

木曾石分校の歴史が始まったのは、昭和二十三年七月。緑に囲まれた太平山のふもと、木曾石地区に小さな木造校舎が建てられました。本校である太平小学校までは約五^{キロ}。子どもの足で約一時間三十分の距離です。当時、太平小学校の児童数は五百人ほど。そのうち木曾石分校には十九人の児童が通いました。

分校の周辺は、まさに自然一色。校



なかよし3人組の4年生

舎のすぐ下を八田川の清らかな水が流れ、晴れた日には、太平山の頂も手が届くかと思うくらい近くに見えます。時にはカモシカ、タヌキがひょっこり顔を出すことも。自然の豊かさは、市内のどこの学校にも負けません。

分校の児童数は、団塊の世代が小学生だった昭和三十二年には四十二人まで増えましたが、その後はだんだんと減り続けました。昭和五十年ころからは、十人を割る状態が続くようになり、とうとうこの春の統合が決まりま



校舎のまわりにある木の葉っぱを使って、押し花の額を作りました。真ん中には、お世話になった校舎の写真を貼ったよ！



1・2年生は同じ教室で授業



廊下、時計、手洗い場...。思い出がいっぱい

閉校式は三月二十五日。子どもたちは春から、スクールバスで本校に通います。分校さん、さようなら。たくさん思い出をありがとう。

最後の分校

現在は一年生一人、二年生四人、四年生三人の、合わせて八人の子どもたちが通っています。校舎には、一・二年生用の教室が一つと、四年生用の教室が一つ。給食は八人いっしょに仲良く食べます。休み時間は体育館に集まって、みんなで一輪車。まだうまく乗ることができない一年生に、二年生、四年生がやさしく教ええます。思いやりの心で結ばれた八人の絆。小さな分校だからこそ、こんなに強いものになったのかもしれないね。

閉校によせて



太平小学校
木曾石分校四年
佐藤優紀さん

分校では、たくさん思い出ができました。川探検が一番楽しかったな。なくなってしまうのはとても悲しいけど、分校のことは、いつまでも忘れません。



太平小学校
木曾石分校一年
橋響子さん

秋のお店ごっこが楽しかったな。山で拾ってきた松ぼっくりやどんぐりを使ってリースを作ったり...。分校、ありがとう。太平小学校では、友だちをたくさんつくりたいです。

太平山も分校を見守ってくれました

